



「下村満子の生き方塾」ニュース

vol.25 2021.08

—XI期修了・XII期入塾式&創立10周年記念公開講座特集号①—



10周年の新たな門出盛大に祝う

——困難乗り越え二本松に結集



次の10年に向け、誓いを新たにする塾生ら

● 各方面から多大な支援・応援受ける

「下村満子の生き方塾」は2021年4月17日、福島県二本松市の県男女共生センターで、「XI期修了・XII期入塾式」と、自然エネルギーに焦点を絞ったパネルディスカッション「必ずできる！日本は自然エネ大国を目指せ」、小泉純一郎元総理の特別講演「日本の進むべき道」で構成される公開講座を開きました。「生き方塾」は2011年4月16日創立され、1日違いですがこの日、創立10周年を迎えました。10周年という新たな門出を記念し祝うため、盛りだくさんの内容となりました。

公開講座終了後は会場を「二本松御苑」に移して、記念祝賀会を開き、次の10年に向け誓いも新たにしました。

今回の開催にあたっては、「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟（原自連）」、城南信用金庫、良知経営財団から後援をいただきました。活字メディアのほかに、電波メディアも事前告知に協力し、特にKFB（福島放送）は事前と事後、放送時間を割いて映像で公開講座を紹介しました。福島FMも下村塾長のインタビューを15分間放送し、当日の司会として古賀徹アナウンサーを派遣してくれました。また、会津ゼネラルホールディングスは、栗林寿相談役、目黒洋代表取締役はじめ20数名が応援に駆けつけ、会場案内や会場整理に尽力してくれました。とりわけ目黒さんは当日の円滑な進行を図るために、前日から共生センターに泊まり込みをしてくれました。このほか、岡部貴敏さんははじめ、福島県男女共生センターの皆さんから全面的な協力をいただき、盛大に、かつ成功裏に終えることができました。コロナ禍という困難な状況にもかかわらず、開催に尽力してくれた皆さんに感謝するばかりです。この日の模様は、①②③の3回にわたり、このニューズレターで詳報します。

(文・構成/皆川猛)

下村塾長の開会あいさつ

● 努力すれば強い思いは必ずかなう

午前10時、第Ⅺ期修了式とⅫ期入塾式が、園部美智子塾生の司会で始まりました。園部さんは「時間の制約があるので、円滑な進行に協力してください。特に1分間スピーチは持ち時間をきっちり守ってください。50秒経過したら、終了の鐘を鳴らします」と呼びかけました。

下村塾長は、「遂に、塾発足から10周年の節目がやってきました。この間、みんな平等に年（トシ）を重ねましたが、正直なところ、私自身、10年間塾をやれるとは思っていませんでした」とあいさつした後、「生き方塾」発足までの経緯を次のように話をしました。

「10年前の2011年3月11日、東日本大震災が発生し、福島県内は震災、大津波、そして原発事故という3つの大災害に遭遇しました。この3つの災害が同時にやってきたのは、人類史上、福島が初めてのことです。実は『生き方塾』の創設準備は、この1年前から進めてきました。なぜ福島で『生き方塾』をやるのかと言うと、福島は両親の生まれ故郷で実家もあり、私も今日の会場である福島県男女共生センターの初代館長を10年間務めていました。

『生き方塾』の説明会を初めてやったのも、ここ共生センターでした。ここを皮切りに会津若松、いわき、郡山と、福島県内各地で説明会をやってきました。

同時に、福島県内には稲盛京セラ名誉会長の主宰の経営塾『盛和塾』がなかったので、『生き方塾』創設と同時進行で、今日ここに塾生として参加している馬場義勝さん、成田仁孝さん、園部洋士さんらの協力を得ながら、『盛和塾福島』創設の準備も進めていました。そして10年前の4月16日、福島市内のエルティという結婚式場を会場にして、『生き方塾』の開塾式を行いました。

当初は、寺子屋みたいに20人ぐらいの人でやればいいのか、と考えていたのですが、200人近い人から塾生になりたいと応募があり、130人に絞ってスタートしました。

実はすんなりいったわけではありません。準備万端整い、後は4月16日に開塾という大詰めの時、3・11大震災に見舞われたのです。開塾は無理だ、駄目だ、と感じていた時、被災した入塾希望者たちから、今こそ、「生命とは何か、生きるとは何か、人は何のために生きるのか」をテーマに掲げる『生き方塾』が必要なのです、と熱っぽく語られ、私は背中を押された感じで、『生き方塾』は誕生したのです。

この10年間、大震災の翌年から5年間、震災発生日時に合わせて、福島の浜通りの被災地で、『福島を忘れない！祈りの集い』を行ってきました。初回は、全国から2500人が参加し、早朝の浜辺で鎮魂の祈りを捧げ、祈りの集いは5年続けました。

● みんなの励ましが下支えに

今日、こうして10周年を記念できるのも、皆様の力があつたからです。初代事務局長の三田公美子さんの頑張りには、頭が下がる思いですが、彼女は昨年12月下旬、亡く



「皆さんの協力があって10周年を迎えられた」と開会あいさつする下村塾長

なりました。私がもう塾は止めようかな、と弱気になった時、「最低3年はやりましょう。3年経ったら、理由をつけて止めても、誰も、何も言いませんから」、と引張ってくれました。彼女は、今日という日を共に祝えず、タッチの差で亡くなり、とても残念です。

10年ひと昔と言いますが、今日ここにいる皆さんと私は、家族みたいなものです。皆さんがいるから、皆さんの励ましがあるから、よろけそうな私ではありますが、やっていけるのです。そして最近、若い方々が塾生になっています。事務局を担っている氏家、諸富、北島さんは、『団子三兄弟』ならぬ『大黒柱三兄弟』ですし、濱田副塾長からは、物心共に惜しめない援助をいただいています。

今日ここに集まるまでには、例によって想定外の出来事に直面しました。昨年3月の公開講座は、コロナ感染拡大防止の観点から、中止としました。今年は、昨年の会場だった郡山商工会議所を昨年夏から押さえていたのですが、コロナによって商工会議所ホールの収容人数は100人と制限されました。これでは開催する意味がないので、会場を郡山市文化センターに切り替え、400人規模での開催に漕ぎつけたのですが、つい2か月前の福島県沖地震で、文化センターは大きな被害が出て、使用不可能になりました。そこで被害が少ない福島市内の会場を探しましたが、どこも満員で駄目。そこで、少し不便ではありますが、ここ共生センターに打診したところ、4月17日だけはホールを使用できることが分かり、コロナのために定数の半分という条件はありますが、今日こうして使わせていただいています。「障害があっても、努力すれば、強い思いは必ず叶う」とは、元盛和塾の稲盛和夫塾長の言葉ですが、「ネバー・ギブアップ」の心意気で物事に当たれば、今日のように道は開けるのです。

こうして10周年を迎えることができたことに、あらためて感謝します。最後までしっかりやりましょう。

塾生10周年の節目で抱負・決意を披露

● 「生き方塾」の継続なくして明るい日本ありえない

下村塾長の10周年を迎えるに当たっての挨拶が終わった後、塾生が一人ずつ、節目の年に当たっての抱負や決意を披露しました。

諸富英輔さん 「Ⅷ期からの入塾で5年目になりますが、10周年の記念事業に携われることは、非常にありがたいと思っています。今日の日を迎えることができたのも、下村塾長のお陰です。事務局運営に関わっていますが、今後とも氏家事務局長の指導を得ながら、精一杯やりたいと思います。公開講座参加希望者からの鳴りやまない電話、名簿作成、コロナ対策と追われる日々でしたが、無事開会出来てホッとしています。皆さんの協力、ありがとうございます」

園部洋士さん 「10周年おめでとうございます。11年前、下村さんから、福島に『盛和塾』をつくるから応援してほしい、二本松の男女共生センターで説明会をやるから、ぜひ来てほしいと言われ、ここを訪ねました。今日ここでこうして話をするのも縁なのでしょう。昨年、「生き方塾」に入るまでは、応援団でした。尊敬する稲盛和夫さんの人生の方程式は、『結果=考え方×熱意×能力』です。『生き方塾』では、この方程式に則って頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします」

● 塾での学びを実践に

成田仁孝さん 「今までは応援団の立場でしたが、今日は新入塾生としてやってきました。稲盛さんが主宰していた『盛和塾』は解散となりましたが、稲盛さんのフィロソフィーを引き続き学び実践する場として、『生き方塾』があります。一塾生としてしっかりやっていきたいと思えます」

馬場義勝さん 「新入塾生です。妻はⅣ期生ですが、母親の介護のために出席が難しい状況にあります。今朝出がけに、机の上を見ると、30冊の本が積まれていました。妻は『これは下村先生や、先生と付き合いのある方の著作です。入塾したら、しっかり読んでください』と言われました。今晚帰宅したら、きっと読まれます。しっかり、まじめに、愚直に、誠実に、学んでいきたいと思えますので、よろしくご指導、ご鞭撻のほど、お願いします」

高橋宏史さん 「新入塾生の私が、創立10周年という晴れの舞台に参加することができて、幸せです。昨日まで、下村塾長はじめ氏家さんら事務局担当者、実行委員の方々は、開催準備に追われていたと聞きました。ご苦労様でした。今日は精一杯、自分の役割を果たすつもりです」

北島一聖さん 「事務局三兄弟の末っ子ですが、氏家さん、諸富さんが事務局の仕事をしてきぱきと処理してくれ、今日の日を迎えることができました。ありがとうございます。10周年の節目にあたり、皆さんと共に、精一杯心を高めようと考えています。よろしくお願いいたします」



開会準備の苦勞を打ち明けた氏家事務局長

氏家範昌さん 「坐禅会の流れで『生き方塾』に入りました。入塾して1年も経過していないのに、今年一月から事務局長などという役割をさせていただき、このような大きなイベントをやっているものかどうか、自問自答しながら、試行錯誤の繰り返しをしながらやっています。今日一日、滞りなくやりたいと思っていますので、よろしくお願いいたします」

阿部洋子さん 「二本松在住でⅣ期生として入塾しました。二本松市役所に務めており、震災からしばらくの間、ここ共生センターの駐車場に張られた自衛隊のテントの中で、放射能のスクリーニングをしていました。そのあとセンターは、浪江町の仮役場となりました。早いもので、あれから10年です。入塾して8年間。いろいろな人から学びましたが、学んだだけでは駄目です。今年度は、学びをどう実践に生かすのか。そんな年にしたいです」

佐藤歌子さん 「二本松在住です。10年前、『福島民友』に、下村塾長の写真と記事が掲載され、『生き方塾』の塾生を募集していると知りました。応募しようと思った矢先に大震災が起きました。私は県庁で農業関係の仕事をしており、被災農家の復興を手伝う仕事に追われ、一段落した2013年に入塾しました。とても楽しく、感動したことを覚えています。それからは親の介護や看取りなどがあって、勉強会にはあまり出席できていません。『生き方塾』に入っていることは、私の励みになっております」

西田克也さん 「坐禅の会から『生き方塾』に入りました。10周年おめでとうございます。『盛和塾』に入ったのは、経営者としての勉強をしようと思ったからです。今度は一人の人間として、生き方を勉強したいと思って入塾しました。ご縁があって福島県内に工場をつくりました。皆さんとの縁を大切にして、一緒に学びたいと思えますので、よろしくお願いいたします」



塾生一言のトリを務める濱田副塾長

飯島充実さん 「『坐禅の会』では、下村塾長の指導の下、心の在り方を学んでいます。そして『生き方塾』では、その道を極めて多彩な人物から生き方を学び、その学びと自分の生きざまを照らし合わせて、自分は未熟だ、まだまだ勉強しなければならないな、と気持ちを引き締めています。これからも共に学びましょう」

佐々木文雄さん 「『盛和塾東京』が解散したことから、『生き方塾』に入りました。『盛和塾』の仲間から、『生き方塾』への入塾を薦められたのがきっかけです。しっかりやりたいと思っています」

● 次の10年目指し共に歩もう

村田稔さん 「私も禅の会から、『生き方塾』に入塾した一人です。大震災以降、福島を訪れるようになりました。現地を訪れることは被災地支援になるからと聞いたからです。『生き方塾』も福島支援の意味もあって、福島で旗揚げをした、と聞いています。福島県は温泉もある豊かな自然もあります。創立10周年を迎えましたが、今度は次の10年を目指しみんなと一緒に歩み、ますます盛んにしたいと思います」

大野一彦さん 「Ⅱ期生です。大震災後、福島の復興のためには何をすればいいのかわからず、と思い続けました。いわきで『祈りの集い』があると聞き、若い人たちを連れていわきを訪れました。その後オブザーバー参加し、こうした活動を実践することが復興に結びつくと考えて、入塾しました。塾長は『ごまめの歯ぎしり』とよく言いますが、私も微力ながら福島を忘れないために動きたいと思っています」

常松景子さん 「Ⅱ期生です。この10年はあっという間でしたが、普段の生活ではできない経験や応援団の方々の話を聞くことができ、それが自分にとって成長の後押しになっています。下村塾長には感謝するばかりです。日常の暮らしではごく狭い範囲でしか話できませんが、『生き方塾』では、たくさんの方々と交流できます。これからの10年も、これまで以上に続けていきたいです。今後ともよろしくをお願いします」

佐々木慶子さん 「入塾6年目です。人生も終盤に入りましたが、毎回新たな刺激と学びがあり、それが私の励みになっています。この2日間、皆さんの準備作業の端っこに

いましたが、こうして立派に記念事業をできるのは、下村塾長の求心力とそれを支える塾生の熱意があるからです。団結力はすごい。交流会では司会をやりますが、皆さんには力添えをお願いします」

鷹栖春奈さん 「『坐禅の会』から昨年入塾して、二本松は3回目になります。1月の接心では雪、今日は雨と、名前には「はる、はれ（晴れ）」が入っているのですが、なかなか晴れ女にはなれません。しかしこうして皆さんと学んで晴れ晴れしい自分になり、周りの人も晴れ晴れしい生活を送れるような人間になりたいです」

澤井雷太さん 「『坐禅の会』に1年間参加し、『盛和塾』が解散したことから、『生き方塾』に入りました。過去20年間アメリカで暮らし、5年前に帰国しましたが、なかなか日本になじむことができず、悶々としていた時、『盛和塾』に出会い、やがて『坐禅の会』を知りました。その中で、西洋、東洋を問わず、時代を問わず、人間には人間として大事なものがあることを学びました。『生き方塾』でもその思いは変わりません。下村塾長について勉強していきます」

村井和敏さん 「私も『心を高める坐禅の会』から参加させてもらいました。大震災の後、ふとしたきっかけから坐禅を体験し、こんな素晴らしいものがあるんだ、と体感し『心を高める坐禅の会』に入ったものです。『生き方塾』でも、このような感動をもって仲間の皆さんとやっていくつもりです」

山下徹さん 「今は仏像を彫ったり、その教室を開いて、生徒さんに教えながら暮らしています。10年前の3月11日、私は中学校の卒業式でした。その後いろんな巡りあわせで、きょうここに出席しています。今は下村塾長の観音様を彫っています。まだまだ未熟な腕ですが、これからも『生き方塾』の発展を祈りながら精進を重ねて誰もが感動する仏像を、下村塾長を頭に描きながら、彫っていきます」

園部美智子さん 「Ⅳ期生です。今日10周年を迎えたのはうれしく、これからもしっかり生き方を学んでいきたいと思っています」

原田慎太郎さん 「今日は進行管理の鐘を打っています。先ほど常松さんから、ハワイの接心以来ですね、と言われました。もうあれから2年半たったのです。仕事他いろいろ忙しく1年半ほど、名前だけの塾生になっていましたが、10周年を機に、塾生五訓にあるように、積極的に参画したいと思っています」

● 数多くの貴重な体験できた

三浦由紀子さん 「Ⅰ期生です。この10年間には、祈りの集い、ダライ・ラマ法王の講演、京都や鎌倉、奥会津での合宿、各界で活躍する方々の応援団講義など、数多くの貴重な体験をさせてもらいました。これも下村塾長のお陰です。これからは塾生五訓にもあるように、学びの還元を目指してやっていきたいと思っています」

篠原陽子さん 「10周年おめでとうございます。前泊して余裕があったので、窓外の山桜を見つつ、『生き方塾』ホームページに載っている塾長の思いを読みました。

10年前の思いは今でも全くぶれていません。そのごさ、素晴らしさをあらためて感じています。この塾にいると心が豊かになっていくのです。これからもよろしく願います」

長島和美さん 「開催まで準備した人たちにお礼を申し上げます。『生き方塾』でできた縁は素晴らしいものです。OB・OGとは今でもつながっています。これからも塾長はじめ皆さんとのご縁を大切に学んでいきたいと思ひます。ありがとうございます」

吉沢朋子さん 「今朝湘南の大磯からやってきました。10周年おめでとうございます。月に一度の『生き方塾』では、他では得られない刺激を受けて、多くのいろいろなことを学ぶことができます。未永くやっっていくつもりです」

崎山恭子さん 「今ここにこうして、この場にいられるのは一生懸命やっている塾生のお陰です。ありがとうございます」

濱田総一郎さん 「あれから10年経ち、感慨深いものがあります。10年前、馬場さんらと話し合い、『盛和塾横浜』と『盛和塾東京』は、下村さんがやろうとしている『盛和塾福島』の立ち上げに全面協力しようとまとまりました。その後『生き方塾』や『心を高める坐禅の会』に参加するようになりました。いわきの海岸で手をつなぎ、鎮魂と福島の復興を朝日に向かって祈る『祈りの集い』には、会社からバスを仕立てて40人が参加したことを覚えています。『祈りの集い』では、最後に『ふるさと』を合唱しました。福島の復興なくして日本の復興はありませんし、『生き方塾』の継続なくして日本の明るい社会はありえないと思っています。下村さんはまだまだお元気です。10周年の節目に、さらなる塾の発展をお願いするところであります。」

塾生の感想、決意披露に続いて、記念写真を撮り、出前の弁当に舌鼓を打ちました。

創立10周年記念祝賀会

● OBも参加 和やかに交流深める



軽妙な司会で会場を沸かせる大野さん[Ⓔ]と佐々木さん[Ⓔ]



和やかに交流を深める祝賀会

● OGが美酒を差し入れ

公開講座終了と同時に、塾生全員で会場の後片づけをある程度行い、仕上げは二本松市在住の阿部さん、佐藤歌子さんがやってくれました。出迎えのバスに乗り、交流パーティー会場の『御苑』に向かいました。ここでもコロナ対策を十分なほど行ったことは言うまでもありません。

下村塾長が『今日こうして10周年記念の交流パーティーを開くことができたのは、実行委員の頑張りのお陰です。不可抗力により会場変更を余儀なくされるなどの紆余曲折もありましたが、塾生はもとより、応援団、OB・OG、公開講座のパネリストやコーディネーターの皆様、来賓、お手伝いして下さった方々と、今日一日の成功の喜びを分かち合ひましょう。そして次の10年に向けて歩み

ましよう』、と開会のあいさつをしました。

80人が出席したパーティーを司会者として仕切ったのは、大野一彦代表世話人と佐々木慶子世話人です。開会あいさつに続いて、『生き方塾』『盛和塾福島』創立に尽力した元『盛和塾東京』の馬場、成田、園部のお三方が、祝いの言葉を述べ、新入塾生としての決意を披露しました。続いて応援団を代表として小林照子さんが「10年間、お疲れさまでした。これからの10年も応援したいと思います」などとエールを送りました。来賓を代表して乾杯の音頭を取ったのは、会津ゼネラルホールディングス顧問の栗林寿さんで、栗林さんは福島原発に関わった経験から「原発は問題点を抱えた未完の技術で進められており、危険と直感していた。今日の公開講座で、40年前のあの直感は間違っていないことを、確認できた」などと、エピソード語りました。

乾杯に続いて食事タイムとなり、和洋中のご馳走を楽しみました。飲み物コーナーには、OGの新城希子さんが届けてくれた会津の清酒「末廣」も並べられ、皆で三密に気を付けながら食事と会話を楽しみました。

飲食タイムの後は『生き方塾』の歩みを紹介するDVD上映があり、応援団の川島佳子さん、会津ゼネラルの目黒洋社長、OB代表の五十嵐一晃さん、元『盛和塾福島』代表世話人の前田英俊さんがあいさつし、この日の感想を話しました。続いて、ホノルル接心で始まった『生き方塾』の2019年1年間の活動を、諸富英輔さんが編集制作したスライドを見ました。

実行委員の感想発表では事務局を担当している氏家、諸富、北島の3人、常松景子さんらが開催準備に追われた日々、苦労などを述懐し、下村塾長が感謝の言葉を述べて、名残惜しく、閉会しました。



感謝の言葉を述べる下村塾長